



PACIFIC RACING TEAM
「NAC 攻殻機動隊 ARISE DR ポルシェ」
14 位完走にも光るパフォーマンスを見せる

2013 AUTOBACS SUPER GT 第5戦
第 42 回 インターナショナル ポッカサッポロ 1000km
#9 NAC 攻殻機動隊 ARISE DR ポルシェ レースレポート

8月17日 [土] 予選 / 晴れ / コース：ドライ
8月18日 [日] 決勝 / 晴れ / コース：ドライ

日本で最も人気を集めるレースシリーズ、SUPER GT の第 5 戦が 8 月 17～18 日に三重県の鈴鹿サーキットで 1,000km レースとして開催され、PACIFIC RACING の#9「NAC 攻殻機動隊 ARISE DR ポルシェ」(密山祥吾/横幕ゆう/坂本祐也)は、予選 10 位からスタートし、一時は 4 位までポジションをアップ。結果的には 14 位完走という結果となったが、随所でパフォーマンスを発揮した。

鈴鹿サーキットは日本で最も伝統のある国際サーキットで、F1 日本 GP の舞台でもありドライバーにも人気のコース。また PACIFIC RACING TEAM にとっても地元のコースであり、応援も多く、ぜひとも結果を残したい場所でもある。夏の鈴鹿といえば二輪も四輪も大きな耐久レースが開催される。今回は真夏のクラシックイベント、通称“鈴鹿 1000km”。43 回目を迎える今年も SUPER GT シリーズの一戦として開催されることになった。猛暑のなかの長距離耐久レースということもあり、このイベントでは第 3 ドライバーの登録が可能。チームでは、昨年まで GT300 レギュラーとして活躍しポルシェ 911 のドライブにも長けている坂本祐也を第 3 ドライバーに起用して臨むこととなった。

連日気温 30℃を超え残暑厳しい鈴鹿。この週末も雨の心配はなく、ドライバー、チームスタッフ、車両、そしてタイヤも猛暑との戦いとなる。17 日朝 9 時 20 分から約 2 時間行われた公式練習で、#9 ポルシェはポルシェ勢トップとなる 6 番手につけ、走り始めから好調さを見せた。今回 GT300 クラスには 23 台が参加。二段階のノックアウト方式となる公式予選は Q1 の結果で、トップ 13 台が Q2 に駒を進めることができる。その Q1 でステアリングを握ったのは密山。気温は 35℃を超えておりコクピットの中も蒸し風呂のようだ。15 分間のセッション中 10 分を経過した時点で、密山は 10 番手のタイムをマーク。その後密山のタイムを上回る車両があったが、ボーダーラインの 13 位となり、これで第 2 戦・富士以来の Q2 進出を果たした。Q2 を担当したのは、前夜にそれを伝えられたという坂本。この 12 分間のセッションで、坂本は 10 位のタイムを出してこれで 10 番目のスターティンググリッドが確定した。

「正直 2012 年モデルのポルシェでは、予選上位は難しいと予想していましたが、朝の練習走行で 6 番手につけることができ自信ができました。決勝レースでは序盤から攻める走りをして、何とかポイントを取りたいです」と密山。決勝レースでの活躍に期待がかかった。

18 日、雲のかかった朝のフリー走行でも、#9 ポルシェは 6 番手のタイムをマーク。ここまで走行を重ねて来た状態で、タイヤのグリップと摩耗性も良さそうで、あとは最後まで走り切れれば結果が見えて来ることになりそうだった。

12 時 30 分、長丁場の決勝レースに向けフォーメーションラップが開始。スタンドには夏休みということもあり家族連れファンが 3 万 6,000 人も詰めかけた。スタートドライバーを務めるのは密山。オープニングラップで 1 台をかわし 9 位に上がった密山は、8 台による 5 位争いグループの中におりひとつも気が抜けない状況。しかし 14 周目のスプーンカーブで痛恨のスピンを喫し、一気に 16 位までポジションを落とすこ

とになった。それでも密山はすぐにペースを取り戻すと、ポイント圏内に近い 11~12 位まで順位を回復。29 周目と予定よりやや早めにピットインして坂本に交代した。18 位でコースへ戻った坂本はポルシェのパフォーマンスを發揮。2 分 6~7 秒台のタイムをコンスタントに出しながら徐々に順位を上げ、周囲のピットインのタイミングもあり、57 周目には 4 位までポジションアップを果たした。

ところが 61 周目のバックストレートで 1 台の車両のタイヤがバーストし、その破片がコース脇に落下。これを排除するためにセーフティカー(SC)が導入されることとなった。このタイミングでのピットインはできないレース規定だが、ピットに設置されたモニターに「SC 導入」の表示が出なかったこともあり、ピットインを指示。坂本から横幕に交代し、トップとは 1 周遅れながら、7 位で隊列に加わることになった。68 周が完了した時点で SC が隊列を離れてレース再開。しかし直後に SC ラン時のピットインが違反と判断されて、90 秒間のペナルティストップが課されてしまうことになった。これで横幕の順位は 17 位までドロップダウン。さらに猛暑が横幕を襲い、82 周でピットインして密山に交代することとなった。

密山は 17 位から徐々にポジションを上げ、111 周目には 11 位まで順位を回復。116 周でピットインして坂本に交代、終盤の追い上げが期待された。13 位でコースへ出た坂本が安定したペースで走行。しかし暑さをしのぐためのクールスーツは動いておらず、坂本は苦しい運転を強いられることになった。それでも坂本は暑さに強いこともあり、133 周目には 11 位へ。149 周目、最後の燃料補給のためにピットイン。坂本からはドリンク補給のリクエストがあったためにこれを準備していたが、車両の接触のためにドアが開かず、ドリンク補給もできないまま坂本をコースへ送り出すこととなった。そして 151 周目の 130R で、坂本はコースアウトを喫しスピン。車両はそこでストップし、レースを終えることとなった。

初入賞が目の前に見えたレースながら、結果的には 14 位完走。しかしポルシェ勢のトップを奪い、4 位まで順位を上げ安定した速さで連続周回するなどパフォーマンスは十分に發揮した。先に行われた富士でのタイヤテストでも好タイムをマークしているだけに、次の富士戦では初入賞を目指し、再びチャレンジ精神でレースに臨むこととなった。

以下チームコメント

神野元樹監督

地元のレースということで多くの方々に応援に来ていただきました。ありがとうございます。結果は残念でしたが、坂本選手もケガもなくすぐに元気になってくれましたし、何よりポルシェのパフォーマンスを存分に發揮できたレースをお見せできて良かったと思います。これからもポイント獲得のチャンスは十分にあると思いますので、ぜひ期待をしてください。

水谷晃エントラント代表

あと 3 周でチェッカーだったので、1,000km に 18km(6km×3 周)足りなかったという結果になりました。結果につながられなかったのは悔しいですが、チーム全体に総合力がついたという感じは受けました。現状のチーム状態ではこれが目一杯で、これ以上の手はありません。でも戦えるということが分かりましたし、富士ではきっといい結果がついてくるでしょう！

小藤純一チーフエンジニア

やることなすこと裏目になってしまいました。SC が導入された際のピットインのタイミングは私のミスです。前のレースではモニターに『ピットクローズ』と出たこともあり、今回は表示されなかったのも、まだピットインできるのではないかと判断しました。今回はアドバンタイヤが素晴らしかったですし、次の富士では結果を残したいです。

密山祥吾

結果は 14 位でしたが、いい内容のレースができたと思います。最初の 2 スティントまではいい流れで走れたんですが、SC の際に流れを取り逃がしてしまいましたね。ですから結果については残念と言うしかありません。今回のレースを走ることによってクルマに戦闘力があるということがはっきり分かりましたから、次の富士はぜひ結果を求めて戦いたいと思います。

横幕ゆう

20 周を何とか走ったという感じです。SC ランが終わると同一ラップのライバルが大勢いるなか、GT500 の車両にアッという間に追いつかれて、混乱から抜け出すのが大変でした。次の富士もハンディウエイトを載せることなく走れますし、12 年モデルのポルシェは“直線番長”ですから、入賞を狙って走りたいと思います。

坂本祐也

乗ってすぐからクールスーツがダメで、ドリンクだけは残しておこうとしましたがかなりつらい状況でした。SC 時のピットインはその周回でのピットインを予定していて、丁度『SC』の表示板が出るころでした。『ピットイン』という指示はありましたが、自分の認識の甘さがあったと思います。せっかく第 3 ドライバーと呼ばれたので結果を残したかったのですが、今回の結果は悔しいです。またチャンスがあればぜひ結果を残したいと思います。ありがとうございました。

2013. 09. 20

